

ワークハウス コムラード 事業報告

平成31年度（令和元年度）事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和2年3月31日現在

事業名	定員	現員
就労継続支援B型	定員20名	26名（男性16名、女性10名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

年齢	～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	計	平均
男性	0	3	0	3	8	2	16	39.5
女性	0	1	2	4	3	0	10	34.9
計	0	4	2	7	11	2	26	37.2
%	0	16.0	8.0	26.0	42.0	8.0		

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
男性	0	1	3	2	1	0	9	16
女性	0	1	2	1	0	0	6	10
計	0	2	5	3	1	0	15	26
%	0.0	8.0	19.0	12.0	3.0	0.0	58.0	100.0

ウ 精神障害者保健福祉手帳・療育手帳・身体障害者手帳の所持状況

	精神障害者保健福祉手帳				療育手帳				身障手帳	
	2級	3級	なし	計	B	C	なし	計	3級	計
男性	6	3	7	16	5	2	9	16	0	0
女性	6	1	3	10	1	2	7	10	1	1
計	12	4	10	26	6	4	16	26	1	1
%	46.1	15.4	38.5	100	23.1	15.4	61.5	100		

エ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	21	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	243日
延利用人数	226	227	226	228	189	167	197	221	210	212	191	272	2566人
利用率	53.8	54.0	56.5	51.8	45.0	43.9	46.9	55.3	52.5	55.8	53.1	64.8	52.8%

事業所開設以降、久喜市近隣市町村および障害者支援センターには利用案内ならびに広報の協力要請を継続しております。本年度は13名の体験利用者のうち10名が本利用につながり、利用契約者は26名となりました。精神障害という障害特性から毎日通所することが難しく、利用率は年度末現在で64.8%です。

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
管理者	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	1	
職業指導員	1	
目標工賃達成指導員	1	
運転員	1	法人内他事業所兼務
計	5	

2 重点実施事項

(1) 経営基盤の確立

法人本部と協議を重ねて、担当を希望する利用者が少なかった弁当製造販売作業を8月中止しました。厨房を改装し、軽作業が出来る作業場を広くしたところ、体験実習希望者が増え、利用契約者は26名、3月の利用率は64.8%になりました。

(2) 一人ひとりの能力や適性に応じた支援

各々の能力や特性に見合った作業に取り組めるように生産工程を細分化し、分かりやすい図や数値を掲示する等の工夫をしました。就職を希望する利用者には、支援センターの協力を得て企業見学や実習を体験してもらいました。

(3) 活動支援の充実

土曜日に余暇活動を企画しても参加希望者がいないので、ゴールデンウィークで受注作業が少ない時に、半日作業をした後で BBQ、ピザを焼いて食べるなどのレクリエーションを実施したところ、利用者の3分の2が参加しました。

(4) 工賃の向上

担当を希望する利用者が少なかった弁当製造販売作業ですが、売り上げの面の大部分を占めていたので工賃は下がってしまいました。しかし、軽作業用の作業を広くできたため受注量を増やし、新たな受注先を2軒獲得することができました。

(5) 食への安心、安全

8月に製造販売を中止するまでは、食材の仕入れ・搬入・保管・取扱いと調理に至るまで衛生と安全には注意しました。また、同じ建物内で作業することもあり、受注する軽作業の内容にも留意して、販売終了まで食中毒等の事故はありませんでした。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 基本的な生活習慣

挨拶や健康についての簡単なマニュアルや既成のリーフレット等を掲示して自律を促しました。

イ 生産活動

各々の能力に見合った作業に取り組めるように生産工程を細分化する、分かりやすい図や数値を掲示する等の工夫をしました。また、利用者同士の相性を考慮した作業グループを作り、作業中のトラブルの軽減を図りました。ま

た、内職作業だけでなく、オリジナルアクセサリー作りの取り組みを始めて、バザーで販売しました。

本年度の平均工賃は、10,606円／月となりました。

ウ 就労支援

就労支援センターの協力で1名を対象に、就労のための適性検査を実施したのち企業見学や短期訓練を行いました。就職には至りませんでした。

エ 余暇活動

ご本人自身で自由に余暇を楽しめる利用者が多いため季節行事は実施しませんでした。ゴールデンウィークで受注作業の少ない時期に、昼食をBBQにしたところ18名中12名が参加しました。

オ 健康管理

年1回の健康診断を実施しました。また、相談事や心配事がある利用者に対してはその都度話ができる機会を設けて、不安や混乱が大きくなるように対応しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務内容の整理

業務分掌を明確にし、業務の効率化を図りました。

イ 心身の健康への配慮

健康診断、ストレスチェックを実施して職員の心身の健康が損なわれないように予防に努めました。特に指摘事項のあった職員はおらず、事故、労災もありませんでした。(ただ、職員1名が9月から長期病気療養に入っており、本年度中には復帰できませんでした。)

ウ 年次有給休暇の取得促進

職員間で予定を早めにすり合わせて年次有給休暇を年間5日以上取得することができました。

(3) 人材育成

ア 研修参加状況

研修名	主催	期日	場所	参加者
「働くみんなが生き活きと輝く職場を目指して」	埼玉葛北地区地域自立支援協議会 サービス管理責任者部会研修会	7/23	白岡市生涯学習センター	岡本
福祉現場に必要な「法律基礎知識研修」	埼玉県社会福祉協議会	8/30	埼玉県農業共済会館	岡本
人事考課者基礎研修	法人	12/2	久喜けいわ	岡本
施設見学会	埼玉県発達障害者福祉協会	12/11	みぬま福祉会「はれ」 他	小田部
防災研修 「命を守る。その時あなたは何ができますか」	埼玉葛北地区地域自立支援協議会 サービス管理責任者部会研修会	2/21	白岡市生涯学習センター	小田部

イ 毎日の打合せや職員会議、ケース会議をとおして利用者各々への理解を深め、上記研修に参加して仕事への意識や知識、技術を養い支援にあたりました。

(4) リスク管理

ア 研修、自己点検、職員の相互確認等で、虐待の防止に努め、利用者と一緒に虐待について考える機会を設けました。

イ 避難訓練を2回実施し、備蓄の災害用物品については利用者と共に置き場所や使用方法を確認しました。

(5) 地域交流

ア 週末は休日と捉える利用者がほとんどで、地域行事が多く開催される土、日曜日に開所しても参加希望者がおらず職員のみで参加して事業所の広報活動をする結果になりました。

(6) 事業運営

ア 利用率の向上と収支の均衡を図る

利用率80%の到達を目指しましたが、達成には至りませんでした。法人本部とも相談の上、担当を希望する利用者が少なかった弁当製造販売作業を8月中止して厨房を改装し、軽作業が出来る作業場を広くしたところ、体験実習希望者が増え、後期の契約者は7人になりました。

イ 支援体制の整備

事業所内での会議はもちろんのこと、利用者を良く知る支援センターや他の福祉サービス事業所や医療機関とも連携し情報を共有しながら支援を行いました。

ウ 生産活動の計画

(ア) 弁当の製造販売

主として法人内の他事業所への販売を行い安定した売り上げを確保してきましたが、調理作業担当を希望する利用者が少なく職員の負担が大きいため、法人本部と協議して8月中止しました。

(イ) 農作物の生産

昨年度に引き続き、埼玉県が実施する障害者農業参入チャレンジ事業に参加し、埼玉県農林公社から技術指導と資材の提供を受け、玉ねぎの栽培に取り組みました。作業を希望する利用者が少ないため、農作業担当職員のみで作業することが多い状況でした。

(ウ) 企業からの受託作業

利用者が徐々に増える中、新しい受託作業受注先を2件獲得し受注量も増えています。新規利用者は、受託作業のみの参加を希望される方が多く、今後この傾向は続くと思われまます。

(エ) 自主製品制作

受託作業の納期に余裕がある時期に、アクセサリ作りの取り組みを始めました。まだ試行錯誤の段階ですが、意欲的に取り組む利用者があり工夫を重ねているところです。